

科目区分	専門教育科目	科目名	介護実習3		科目コード	17F640	担当者	荒木 正平、植木 明子、田川 千秋			
対象学生	介護福祉士コース1年生	学期区分	後期	単位数	2	卒業要件	必修				
						免許・資格要件	介護福祉士必修				
科目の主題						学修成果との関連（大◎、中○、小△）					
実習区分（I）最後の実習である。特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害者施設、訪問介護での実習において、利用者の生活や個性を理解する。利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。						1. 「尽心」 誠実な人柄と 人間力	2. 「創造」 高度な知性と 創造力	3. 「実践」 明確な意思と 実践力			
科目の到達目標						① 誠実性 ・ 真摯性	② 多 様 性 ・ 協 働 性	③ 知 識 ・ 技 能	④ 表 現 考 ・ 創 造 断 力	⑤ 実 主 行 体 力 性 ・ 自 立 性	⑥ 就 業 力 ・ 貢 献 力
1.	特別養護老人ホーム（※該当者は訪問介護含む）等、実習施設の役割を知る。					◎	◎	○	◎	◎	○
2.	利用者の全体像や生活を理解し、アセスメントによって課題を明確化できる。					◎	◎	○	◎	◎	○
3.	日常生活上の基本的な生活援助が、指導者の指示で実践できる。					◎	◎	○	◎	◎	○
4.	介護福祉士の職務の専門性や、チームの一員としての役割を理解できる。					◎	◎	○	◎	◎	○
5.	医療的ケアを受ける対象者像について理解する。					◎	◎	○	◎	◎	○
授業方法						成績評価の方法と割合					
学外実習（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害者施設のいずれか一つに、10日間の実習である）						受講態度（40%） 提出物（20%） 実習先の評価（20%） 実習の記録（20%）					
準備学修						課題等への対応					
1) 実習の意義・目的を理解する。（授業前後の学習としては30～40分程度） 2) 実習施設の概要、主な業務など施設についての基礎知識を習得しておく。 3) 実習記録の方法について理解しておく。 4) 介護過程の方法について理解しておく。 5) 実習に必要な介護技術や利用者理解のための知識を習得しておく。 6) 福祉関係法規の理解						実習期間中の学習状況について、巡回教員はこまめに個別での助言指導・相談対応を行う。					
授業計画											
<p>(1) 利用者の生活に触れ、その身体的特徴に関する理解を深める。</p> <p>(2) 利用者とのコミュニケーションを通して、その精神的特徴に関する理解を深める。</p> <p>(3) 入所背景、家族背景など、利用者の社会的特徴を把握することの意義を理解する。</p> <p>(4) 実習施設の概要を理解する。</p> <p>(5) 在宅生活をしている人の生活を知り、訪問介護サービスの内容が理解する（※該当者のみ）</p> <p>(6) 利用者に関する情報収集を行い、全体像を把握し、生活課題を明確にする。 さらに、利用者記録に整理する。</p> <p>(7) 利用者の状況に応じた援助を学ぶ。 ・安全と安楽に留意し、基本的介護技術を体験する。 ・体験した介護に関する知識や技術を振り返る。 など</p> <p>(8) 介護福祉士の役割を理解する。 ・担当利用者のアセスメントを通し、チームワークの具体的なあり方を学ぶ。</p> <p>(9) 経管栄養の実際を見学し、その必要性と留意点を学ぶ。</p>											
教科書・参考書						受講生へのメッセージ					
新・介護福祉士養成テキスト 「介護総合演習」中央法規出版						実習3では、介護実践に関して求められることが増えると同時に、介護過程の展開についての準備も開始することになります。慌ただしく感じられるかもしれませんが、そんな時こそ基本に戻り、目の前の利用者に寄り添うことを意識して取り組みましょう。					